

南房総市病院事業住民説明会 議事録

日時：令和5年11月23日 午後6時33分～午後9時00分

会場：南房総市富山岩井コミュニティセンター 1階多目的ホール

対象：南房総市民、富山国保病院の患者

参加者数：194人

進行 皆様こんばんは。本日はお忙しい中、病院事業の住民説明会ということでご案内いたしましたところ、多くの皆様方にお忙しい中、ご参加くださりまして誠にありがとうございます。

初めに開会にあたりまして3点ほど注意事項をお伝えいたします。

まず1点目ですが、会場内における携帯電話、スマートフォン等についてですけれども、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定するなど、音が鳴らないような状態にさせていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

次に2点目ですが、本説明会につきましては、録音をさせていただいております。録音された音声をもとに後日、市の方で議事録を作成しまして市のホームページで公開をしていく予定です。

なお参加者の皆様における動画又は写真の撮影、音声の録音等につきましては、個人のプライバシーを侵害することのないようご配慮くださいますようお願いいたします。

3点目でございます。感染症対策といたしまして、説明会参加中におきましては、マスクの着用についてできる限りのご協力をくださいますようお願いいたします。

本日の説明会ですけれども、1時間30分を予定しておりますが、1時間30分にこだわらず、可能な限り時間を確保したいと考えております。意見が活発に出されている中で、それを途中で打ち切るような形で終わらせることは考えておりませんが、なるべくそんなに遅くならないように、終了させていただきたいと思っておりますので、あらかじめお伝えをさせていただきます。

本日の資料につきましては、皆様のお手元に1部配布させていただいております。もし無いという方がいらっしゃいましたら申し出てください。

大丈夫でしょうか？ ご案内については以上になります。

それでは、市側の出席者をご紹介します。

初めに、南房総市長 石井 裕でございます。

市長 よろしくお願ひします。

進行 富山国保病院病院長 鈴木 孝徳でございます。

病院長 よろしくお願ひします。

進行 富山国保病院事務長 渡邊 かおりでございます。

事務長 よろしくお願ひします。

進行 皆様から向かって正面右側、南房総市副市長、嶋田 守でございます。

副市長 よろしくお願ひします。

進行 その隣、南房総市総務部長 高梨 真一でございます。

総務部長 よろしくお願ひします。

進行 その隣、南房総市総務部総務課長 座間 好雄でございます。

総務課長 よろしくお願ひします。

進行 申し遅れましたが、私は富山国保病院の座間と申します。本日進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは説明会に先立ちまして、石井市長より皆様にご挨拶申し上げます。

市長 それではまず冒頭簡単にご挨拶申し上げます。

本日は皆様にはお忙しい中、また本来休息の時間にも関わらず、参加くださりありがとうございます。

今日は私どもの考えを聞いていただきまして、皆さんの意見をお聞きしながら、今後の病院のあり方を考えてまいりたい。よろしくお願ひいたします。

進行 続きまして、鈴木病院長よりご挨拶申し上げます。

病院長 国保病院の鈴木です。

日頃から地域住民の皆様には大変お世話になりまして本当にありがとうございます。

またこの度のこの病院の問題につきましては、皆様からいろいろとご心配いただきまして、また大勢の方からご署名も頂戴いたしまして、職員としては大変ありがたく思っております。

本日は、病院のこれからにつきまして皆様と意見交換をさせていただく機会といたしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

(スライド上映開始 内容：配布資料と同じ)

進行 それでは早速ですが、市の方から病院事業の現状と今後についてご説明を申し上げます。お手元にお配りしました資料1枚めくっていただいて、表紙の裏面になります。はじめにということで記載させていただいておりますが、今日の説明会でご説明する内容につきましては、南房総市としての最終方針ではありません。南房総

市の地域医療を維持していくためにどうすればよいか。そのために富山国保病院が今後どうあるべきかという視点で検討を行っておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。

ここからは鈴木病院長より現状についてご説明いたします。

病院長　それでは次のページでございますけれども、スライド次行けますでしょうか？富山国保病院の現状についてですけれども、現在はベッド数が51あります。また、2019年に安房地域医療センターと地域医療連携推進法人というのを設立いたしました。これは2つの医療機関が協力して連携して分担して、そして地域医療に貢献していこうと、そういった趣旨で設立されたものであります。

これまでに理学療法士の派遣をいただいたり、また現在では医師そして検査技師の応援をいただいております。また今年度から電子カルテを導入いたしましたけど、安房地域医療センターとの共通の電子カルテでありまして、そのご指導といたしますか、教えていただくのも医療センターに大変お世話なっているというところであります。

2019年当時は累積の赤字が3億円ほどありましたけれども、現在は13億を超える黒字となっており、これはコロナの診療を行った結果ということであります。

次のスライドも近年の診療活動として2019年台風がありまして、この地域も大変な被害を受けましたが、当院は幸い大きな被害が無く停電することも無くですね、診療を続けることができました。これは自家発電設備が整備されていて、それで全館がフル稼働いたしましたして、救急患者さんの受け入れ、また入院患者さんの診療に特に大きな支障なくですね、することができたというのがございました。またその自家発電は燃料がないと動きませんが、その燃料の補給に当たっては、地元の商店様からですね、滞りなく補給していただきましてそのおかげで病院が動いたということがありまして地域の皆様には感謝申し上げます。

また2020年からはコロナの診療を行うということが、この地域の医師会等で当院が感染症病床があるということでやると、いうふうに決定されまして、当院もそれに応えようということで取り組んでまいりました。

コロナの診療には非常に様々な困難がありましたけれども、職員がですね、本当に初めてのことであり、非常にですね、使命感を持って献身的にですね、やってくれたおかげでですね、コロナの患者さん、安房保健所からの要請、入院要請はほとんど全てを引き受けてですね、診療をいたしておりました。

そして現在は、その当時は一般診療を制限せざるを得なかったんですけれども、現在は一般診療とコロナと両方を両立してやっていこうということで取り組んでいるところでございます。私からは以上でございます。

市長 それでは私の方から引き続きまして説明をさせていただきます。

それではまず初めにですね、司会の方からも申し上げたことですが、今日ご説明させていただく内容はもちろん、まだ市としての最終案という結論に至ってわけではありませぬし、かつ私もこの医療センターとの病床統合というやっぱり提案をさせていただいた当初から申し上げているように、今後またじっくり検討しながら最終的な結論を導きたいというふうに申し上げていますが、いずれにしてもこれは最終案ではございません。

そして、私はこのことを申し上げるにあたってその中で、このスケジュール感としては、当初、今年度いっぱい市としての考え方の結論を出して、令和9年度の病床統合に向けて取り組みを進めていきたいと考えているということを申し上げましたけれども、そのことに関しましては、まだまだ検討しなければならないものも多々あります。そういう中で、まだ結論を出すのは早いということで、少なくとも1年は検討期間を延ばしまして、最終的な結論を得たいというふうに思っています。しっかりとした検討を積み重ねながら、そういう結論を導き出していきたいというふうに今考えてるところでございます。

医療センターとの病床統合という考えに至る考え方なんですけれども、まずうちの病院の抱えている課題と申しましうか後ほどまたご説明しますが、一点としては、中長期的に見てですね、いわゆる患者数これは安房地域全体に言えることかもしれませんけれども、患者数の減少が見込まれる中で、病院収益はかなり厳しくなっていくだろうということ。それともう1点は、この病院もですね、建設から現在35から36年という状況になってまいりまして、だいぶこの老朽化というものが顕在化してきています。

病院の寿命というのは、一概に全て言えるわけではありませんけれども、参考に申し上げるとですね、近くで言えば鴨川の国保病院が建て替えましたが、鴨川国保病院は築48年で建て替えたということです。

ちょっと話は少し皆さんに理解していただきたいのでお話ししますが、全国的なある機関が調査した中で、私の知識という認識の中では、病院の建て替えというもののサイクルは、31年ぐらいで建て替えていると、そういう調査結果があると私の知識の中ではございます。

それは鉄筋コンクリートの建物が35年で全て駄目になっていくってことばかりではなくて、病院の機能がですね、やはり10年20年30年経過してくる

と、その時々医療需要に答えられなくなってくるというのが原因じゃないかというふうには考えられますけれども、いずれにしても、そういったサイクルで建て替えられているというのが私の知識の中ではございます。

今申し上げたように当院の場合には、35年が経過していて、あと10年すれば45年と、これ計算すればそうなりますけど10年もすれば45年ということで、鴨川国保の例が全てに関係するわけじゃありませんけれども、鴨川国保も築48年で建て替えるということで、かなり10年後ぐらいには老朽化、オールドックスには考え方としては建て替えていく必要が出てくるだろうと、こういうことが普通に見込まれるわけです。

そういう中で、医療需要がつまり病院収益が低下していく、そして10年後位には、一般的には建て替えというようなことが、建て替えばかりが手法じゃないんですけどね、一般的には考えられるという状況の中で、果たしてこの病院経営というものをこのままここで続けていけることができるかということ考えたときに、これは厳しいだろうと、そういう考えのもとに、この地域の医療機能を持続的に維持していくためにどうしたらいいかということで、医療センターとの病床統合というものは有力な考え方だろうということに至って、こういった提案を皆さんにさせていただいているという状況です。

ちょっと資料に沿って少し説明をさせていただきます。

まず国保病院のご覧いただいたとおり、この収支状況なんですけれども、収支状況はあまり細かく申し上げてもあれですけど、平成29年度30年度あたりがだいぶ病院経営が厳しくなっちゃってまいりまして、国からうちの病院を運営するために、いただいている交付金があるわけなんですけど、それを全て病院に繰り入れて運営を支えているわけなんですけど、それでもそういう国からの交付金だけでは足りずに市の一般会計の方から、さらに5000万程度、つまり5000万程度の赤字になるような状況になってきたわけです。

令和元年度はこういう状況の中で、このままでは病院経営が続かなくなるということで、亀田病院の方に伺い相談をさせていただき、そして安房地域医療センターと地域医療連携推進法人を作り、そして病床についても、いわゆる急性期病床から回復期、地域包括ケア病床ということに転換をさせていただき、そして令和元年度については、それが効を奏し、黒字化されたわけです。

2年度3年度4年度に関しましては、これはコロナということの対応になってまいりましたので、通常とはちょっとだいぶ違ってきますので、この点については本当に病院のスタッフ一同頑張ってくれました。そしてこのような経営状況になって

いると、収支の状況で言えば、これは大きな黒字になったという状況にございます。

続きまして先ほど申し上げた病院の収支予測ということになってくるわけですが、まずは今画面の方に出ておりますのは、今後の高齢者、ちょっと今回皆さんに資料をお作りしたのは、特に医療需要の高いのは高齢者の方ですから、65歳以上の方々、そしてまたその中でも75歳以上の後期高齢者の方々の人口推移がどのようになっていくのかということをごここにそういう予測を書かせていただいています。

これをご覧いただいでですね、ちょっと見づらいかもしれませんから折れ線グラフでご説明しますと、折れ線グラフの赤い方が75歳以上の方々の人口推移予測、そして下の青い線が65歳から74歳ということで、前期高齢者の方々の人口予測になってまいります。

これをご覧いただければおわかりになるようにですね、いわゆる75歳以上の後期高齢者の方々に関しては、安房地域全体としてもですね、令和12年ぐらいがピークになるんじゃないかという予測がされています。

この表はですね、ちょっと5年単位でこの予測を立てていますから、若干12年というズレもあるんですけど、いずれにしても10年11年12年、12年ぐらいが後期高齢者の方がピークになってきて、それ以降はいよいよその後期高齢者の方々は減ってくるという予測です。

これをご覧いただいたような予測で5年単位でいけば、令和10年が1万149人、15年は9502、令和20年は8400人そして、前期高齢者の65歳以上の方に関して申し上げますと、この年代の方は既に減り始めていまして、ご覧のような予測の中で、どんどん減っていくとこういう予測になってくるわけです。

こうした人口予測をもとに、次の病院の収支予測の方に移りますけれども、高齢者の人口の推移だけが病院経営の数字に直接関わってくるわけではありませんけれども、やはり高齢者の方々の人口減少というのが、病院経営には大きな影響が出てくるということはお考えいただければわかる通りなんですけれども、特にこちらの富山国保病院の場合には、患者さんの属性を申し上げますと、入院患者の大体50%ぐらいは旧富山町の富山地区の方々です。

そして外来患者の70%から75%ぐらいが、この富山町の方々です。こういう状況がずっと続いています。ですから、こちらの富山国保病院の場合には、かなり富山、旧富山町のこの地区の人口の増減に、この病院経営は影響されるということが、これは普通に想像されることだというふうに思っています。

ですから、高齢者の人口の予測だけが病院経営に影響をもたらすものではないんですけれども、基本的にはそれをベースとした予測になっています。

そうした予測に立って申し上げますと、ここにある収支予測のように、令和5年度、今年度については、今年度もまだ年度途中であり、まだ最終的な決算になったわけじゃありませんから、まだ本当にわからないわけなんですけど、今年度に関して申し上げますと、1000万ぐらい0.1億ぐらいの黒字になるだろうと、このような予測をしています。

これに対して市から病院経営に対して繰り入れているお金は国からいただいている交付税を満額1億5000万繰り入れた場合に、いうこういう数字になっています。

それに対して令和10年以降がどのようになっていくかということ、令和10年度に関しては、収益費用の差額が赤字の1000万ぐらいだろうという予測になっています。今とほぼ変わらないだろうと、こういう予測です。

一番最初にこの病院のことを、提案させていただいたときの収支予測から申し上げますと、ちょっと違ってきています。

皆さんにこの話を一番最初にこれまでさせていただいたときに使っている収支予測では、この収支予測と比較すると、今年度の見込みが約6000万ほど、収益が増えています。それと令和10年度の予測については、約1億2000万ほど収益が増えています。

ですから元々使っていた我々の予測よりは、だいぶ良くなっているわけです。そのだいぶ良くなっている原因はですね、今年度の病院の医業収益が当初考えていたよりもだいぶ良いです。今年度の事業収益はだいぶ良いです。

それとそれに反面、かかるであろうと思っていた様々な費用が思ったほどはかからないということで、収益が伸びている費用は減っているということで、今年度の収支見込みは、当初公表しているものよりは、約6000万ほど上振れしています。

令和10年度に関して約1億2000万の違いが出ていますと申し上げましたけれども、これもやはり医業収益の伸びが大きいであろうと、今年度の医業収益を参考にベースとして考えていくと、令和10年度の医業収益が当初の見込みよりだいぶ良だろうと、それとこの予測の中に入らないのは、ちょっとわかりづらかもしれませんが、当初皆さんにお示しした医業収支の中には、令和10年度に関しては、病院がかなり老朽化してきていますから、改修工事とか多分もうこれぐらいは10年度までには手を加えていかなければいけなくなります。今の状態では。そうしたことを、費用面では、以前皆さんに公表しているものは見込んでいますけど、今回の

このお見せした表にはそれを見込んでいません。ですから、費用は減っているんです。ですから、今日お見せした資料に関しては、人口予測ということだけをベースとした、医業収益がどう推移していくかというような予測、医業それ以外の収益の増収になるような要因や、あるいは費用がかかるかもしれない要因は排除していません。つまりここを見ていただくとわかるんですけども、費用という欄ですね、令和5年度から令和20年度までは6億4000万で一定になっています。ですから費用に関しては、基本的には改修工事等がこれからかかってきますから、もっとかかるはずの予測になるんですけどそれは除いています。

ただ、人口推移がどう影響を与えるかという予測に立った収支予測になっています。

ここにご覧いただくとおりですね、令和15年度は7000万ほどの赤字、そして20年度は1億2000万ほどの赤字ということが我々の計算上では見込んでいるわけなんですけども、これもですね、狂ってくる可能性はもちろん、絶対こうなるとは言い切れないわけです。ですから少し間引いて考えるわけなんですけど、いずれにしても、今の人口予測の中では令和10年度ぐらいには、令和15年度から20年にかけては5000万から1億ぐらいの赤字になってくるだろう。こんなような予測を立てているわけです。我々としては、これが今の収支予測となります。

次に参ります。富山国保病院の主な課題ということでございます。

これは先ほどから私がお説明しているように患者数の減少が見込まれていること。これが病院にとっては大きな課題と言えます。

それと医師の先生方を初めとした医療従事者の方々の確保。この点に関して、今日特にこの問題が浮上したというよりは、これまでも病院経営の中では医療従事者の方々の確保については、院長先生始め、苦勞されて、ずっと頑張ってくださいているわけなんですけども、いずれにしても医師の先生方を初めとした医療従事者の確保というのは、引き続きこの病院にとっては大きな課題であり続けるということです。それと先ほど来申し上げているように病院施設の老朽化という問題です。

続きまして4点目として書かさせていただいたのは、公立病院としての役割や検証といったものが必要な時になってきていますねということが今回課題ということで挙げられるということです。

次に参ります。課題への対策についての検討ということで、次からは①②③ということで、それぞれのテーマごとにですね、課題を整理させていただきました。

ここに記載されているような内容について、これから引き続きしっかりと検討を積み上げていく考えです。

まず機能面の検討というところに、このページにありますように、この病院について、繰り返しになりますが、医療センターさんとの統合ということが、最終案ではありませんので、ですからそれはいわば1案ということで、有力な案だとは思っていますけれども1案ということの中で、引き続きここに書いてあることを検討していきます。

例えば、ここのページにあるように、現状と同機能を引き続き継続していく今の病院の規模を引き続きそのまま継続していくや、またあるいは病床数を減らして、要は縮小して規模を縮小して、病院を経営していくですとか、またあるいは、統合再編プランというふうに書かれていますけれども、他の公立病院との統合ということも可能性としてはないのか。これ具体的に言えば他の公立病院というのは、近隣でいうところの鴨川国保病院ですとか、またあるいは鋸南病院ですとか、こういうことになります。ただ、このことは相手方には何の話もしていませんけれども、こういったことも検討課題としてはあるよねということで考えています。

それ以外にここに書かれているように、病床の移譲、またあるいは民間譲渡、国保病院の閉鎖、このようなことを考えていかなければいけないというふうに考えているところです。

続きまして次のページの②の経営面でもこれはですね、ちょっと皆さん方にはわかりづらいかもしれませんが、今は公設公営ということで、まさに市の事業として全ての経営を担っているわけなんですけども、これを例えばですね、よく公立病院を再編するにあたって、病院経営を自治体から切り離して、民間病院並みの経営に切り替えるというような手法で取り組んでいるところがございます。

例えば、お隣の鋸南国保病院はまさしくそうで、元々は鋸南町の公設公営の病院だったわけですがけれども、数年前に経営形態を切り替えて、今では公設民営ということで、あの病院を担っているのは、一言で言えば、民間の医療法人が病院を担っています。また、もちろんそうなってくると、鋸南病院を例に例えれば、そこで働いている方々の職員さん方の身分といいたいまいしょうか、身分はかつては公務員だったわけですがけれども、今は1民間病院の職員ということに切り替わっています。

それとそれ以外にも、皆さんなかなかちょっとわかりづらいかもしれませんが、独立行政法人というような経営形態で、自治体からは経営を切り離してということで、公立病院の経営の立て直しに当たっているというところも、千葉県内にも全国的にもございます。これは経営形態を見直すことによる病院のあり方を何とか見直していこうということの一例となります。

続きまして3番目ですけれども、施設面の検討ということで、施設面に関してなんですけど、実はこの施設面に関してということが、この病院にとってはですね、今

後10年15年というスパンで見たときに、ある意味では一番大きな課題です。10年という期間は、あつという間に来ますから、先ほど申し上げたように、一般的にオーソドックスに考えるならば、10年後うちの病院は築45年という状況の中で、一般的には建て替えましょうと、こういうようなことになってくるのがオーソドックスな形です。

繰り返しになりますけれども、この病院の抱える課題はですね、さっき私が収支予測の中でお話ししたように、令和10年ぐらまでは、こちらの病院の経営は普通に今年度と変わらずいくであろうということが予測されますけれども、令和15年度20年度という状態になってくると、率直に申し上げて、ほぼ間違いなく赤字にはなってくるであろうということが見込まれます。

ちょうど赤字になってくるのはほぼ間違いありませんというときに、この病院を建て替えるのか、あるいはどのようにこの病院をしていったらいいのかということが非常に大きな課題になります。

ですから、まさしくまだ早いような気がしますけれども、今からそうした視点で、この病院の将来を考えていくということは、とても大事なことだというふうに思っています。ですから、人口推移によって病院経営が厳しくなっていくという問題それと、もう一方で、施設の老朽化ということがかなり顕在化してきていて、この点が10年後のこの病院のあり方については、本当にまさしく大きく病院をどうするかを左右する、考えなければいけない大きな課題なんですという状況です。

以上で私からの説明は終わりますけれども、以上のような視点に立って、繰り返しになりますけれども、いわば1案としては医療センターとの病床統合ということ掲げています。ただ、繰り返しになりますけれども、今申し上げたような様々な視点から今後もいろいろ病院を取り巻く環境には厳しい面があるんですけれども、今後も病院として維持し続けることができないのか、そういったことも引き続き検討をしっかりとしてまいりたいと思っています。

そうした検討をきちっと積み上げ、そしてもちろん説明会はこれが最後ではなくて、そういう検討経過に沿って、また皆さんにご説明をさせていただきながら、少しでも皆さんの理解を得られるような結論を得たいと思っています。

スケジュール感に関して先ほど申し上げましたけども、というわけで、少なくとも令和6年度いっぱい、今申し上げたようなことを検討し続けたいというふうに思っていますけれども、極端に言えば令和6年度いっぱい、またこの結論が得られなければ、2年でも3年でも、こうした議論や検討をしっかりと積み上げていきたいというふうに今考えているところです。

私からの説明は終わらせていただきます。皆様からのご意見を承りたいと思いません。

進行 それでは市の方から説明を行いましたので、質疑応答の方に移りたいと思いません。

多くの方にご意見をいただきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

なお、発言に際しましては、係員が御席までマイクをお持ちします。正確な議事録の作成のため、マイクを通してご発言くださるようお願いいたします。

また、ご発言される際は、着座のままでも構いませんが、地区名とお名前を述べてから、ご発言くださるよう重ねてお願いいたします。

それではご質問のある方は挙手をお願いいたします。

参加者1 ○○から参りました○○と申します。病院の方々につきましてはいつもありがとうございます。資料見ながらちょっとお話ししますが、市議会代表一つの問題が病床統合という話が出てますね。ちょっと調べてみたら、安房地域においては使われてない病床があるということで、それはどこかといったら三芳病院、九重病院、鋸南病院。なぜ国保が50床の病床を太陽会に移譲するのか、その辺の理由がわからないんですけれども、それと千葉県の医療福祉なんとかというところに電話で確認したところ、病院の病床数の管理は県がやってると。ですので、太陽会が病床が欲しければ、県の方に申し出て、病床の移譲ですか、それをやってもらえばよろしいんじゃないか。

それと厚生労働省が、地域連携推進法人これを設立した場合、過剰病床地域であっても、地域医療連携推進のために寄与する場合は、病床を増やすことを許可するとそのようになっていきますけれども、まず安房地域における病床これを太陽会に移譲すればよろしいんじゃないでしょうか？

市長 まずですね、太陽会の病床数を増やすがためだけに、うちの国保病院の病床を移そうと考えているわけではありませんで、繰り返しになりますけれども、うちの病院の場合は繰り返しになりますが、今後の患者数の予測に沿った病院収益が厳しくなっていくであろう。それと、病院の老朽化を考えると、建て替えていくということは厳しいだろう。そういうことで今後もこの地域の医療機能を残していくために、安房地域医療センターさんとの統合案というのは、病床は医療センターさんに移管するわけですが、こちらの病院については、診療所としてしっかり医療機関としては残して維持して頑張っていこうと。ただ、この結論としては、仮にそうだったとしても、医療センターさんがこの病院を運営するかどうかっていうものは決まっているわけじゃないんですね。ただいづれにしても、この富山地区で医療機関

を無くしてはいけないと思っていますから、少なくとも診療所として持続可能な形で残していこうというのが今回の考え方で、病床数だけを医療センターさんが望んでいるから、そのためにうちの病床数がある意味で差し上げようとか、そういう考えでは全くありません。

それと、他院で非稼働病床が今現にあります、安房地域全体で言えばですね、その非稼働病床をどのようにしていこうかっていうのは、これはまた他院の考えからですから、そこに対してちょっと我々が、あなたの所こうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかっていうふうに、なかなか口を出すわけにはいきませんので、その点に関してはちょっと私どもが申し上げるようなところではないということです。

病床数の管理については確かにいわゆる千葉県の中で考えてるわけなんですけれども、これ全国的にそうなんですけれども、過剰病床数が多いところはその過剰病床数をなくしていきましようという流れがあります。安房地域についても、いわゆるちょっと皆さんわかりずらいかもしれないですけど、急性期の病床、急な病気になったとか、そういうような今までずっと国保病院はそういう医療を担ってきたわけなんですけれども、その急性期の病床が安房地域では過剰すぎるので、県の試算の指摘ですけども、これは減らしなさいということになったわけです。

その中で、うちの病院はしからば急性期の病床でしたから、急性期の病床を減らさなければならないのという流れの中での経営を立て直さなければならないという流れの中で、地域包括ケア病床というふうに方向を変えたわけです。

それが今の現状になっているということで、いずれにしても安房地域医療センターの病床数を増やすがためにどうしたらいいかというような、病院再編を我々は考えているわけではありませんので、ご理解いただきたいなというふうに思います。

参加者 2 私は〇〇の〇〇と申します。

富山国保病院と地域医療を守る会の〇〇です。

まず初めに今回、住民説明会を開催していただいたことに感謝を申し上げます。

私は10年前に松戸から移住しました。そして5年ぐらい前に1人になって、死ぬ思いをしましたけど、夜間救急医療で富山国保病院ですぐに治療していただきました。私にとっては富山国保病院は命の恩人です。

私はですね、富山国保病院が75年間という長きに渡って、この地域の住民に信頼されて、そして病院が地域の医療を支えてきたということを行いました。

石井市長はですね、富山国保の病床の安房地域医療センターへの移管の最大の理由として、将来10年経たないうちに、赤字経営が予想されるということをお話されております。私はですね、この考え方は根本的に間違っているというふうに思います。

富山国保は過疎地の不採算医療を担っています。元々赤字経営を前提にしています。そのために国から交付金が出ています。

将来の赤字を理由に富山国保を廃止するというのは過疎地域の医療に対する市の責任を放棄することになるのではないのでしょうか。

石井市長は将来的な持続可能性が必要だと言っておられます。

富山国保の病床を安房地域医療センターへ移管することが、将来的な持続可能性を維持することになると考えておられるようですが、私はこれも間違いだと思えます。

人口減少は南房総市、富山地区だけの問題ではありません。安房地域全体の問題です。人口減少によって将来、安房地域医療センターが経営困難となり、撤退することがあり得るのではないのでしょうか。しかし富山国保はそうではありません。公立病院なので国から毎年1億5000万円の交付金が出ています。もし交付金が足りなければ交付金を増やすように国に要望すればいいのではないのでしょうか。富山国保を維持し充実させることこそが、将来的な持続可能性を保障することになるというふうに思います。

富山国保があるから移住してきたという方が多いです。こういう人は病院が無くなったから他に移住してしまうのではないのでしょうか。

今後、人口減少をくい止めるためにも富山国保を残すべきではないのでしょうか。

南房総市、富山地区でも人口減少が続いてますが、高齢化によって病院の利用者の減少は、割と少ないのではないのでしょうか。

人口減少の富山国保の利用者の割合関係について検討してあるのでしょうか？これから超高齢化社会になることが予想されます。超高齢化社会だからこそ、富山国保を残すべきではないのでしょうか。

富山国保病院を守る会として病院の存続充実を求める署名に取り組みました。現在約1万3000人の署名が集まっています。富山国保病院をなくしてはならない。これが民意だと思います。

石井市長におかれましてはぜひ民意に基づいた市政を行っていただくよう強く要請します。よろしくお願ひします。

市長 ご意見として受け止めながら引き続き検討にあたってまいります。

参加者3 ○○の区長の○○でございます。

市長の懇切丁寧な説明を理解したうえで、区長の立場と地域住民としての意見を述べさせていただきます。

結論から申し上げますと、令和15年までの向こう10年間、病院としての機能を存続するよう強く要望いたします。理由を3点述べます。

1点目、富山地区に限らず、今後団塊世代の方が市民の大半を占めるため、南房総市において、医療機関の充実が必要と考えます。

2点目、4月21日の区長会で市長は、病院の利用者の7割が富山地区の市民との報告がありましたが、これをもって赤字経営の要因並びに地域限定の病院になるような説明には納得できません。また9月定例議会で病床統合の一般質問がありましたが、一番重要な問題はどこと捉えているのか。住民の声なのか、経常損益なのかの問いに対し、市長は重視するものはあくまでも今後の経営予測であると回答しています。

地域を活性化させ、住民に未来の展望を示すことが行政の役割ではないでしょうか？赤字経営だから仕方がない。しょうがないでは地域はますます疲弊してしまいます。

3点目、市長の健全な財政運営を図る立場は重々理解できますが、余剰金13億6000万円と病院の地方交付税算定額1億5000万円を運営費に充て少しでも赤字解消に取り組めば、経営の存続も可能ではないでしょうか？医療従事者を確保することや、建設から35年程度経過している鉄筋コンクリートの建物は、調査改修することにより10年間は使用可能と思います。

最後になりますけど、市民一人一人の集合体が南房総市です。一人一人について考えることは、全市民について考えることであり、全市民について考えることは一人一人について考えることと思います。

住民の切なる願い、日々の生活からにじみ出てくる心情を推し量っていただきたいと思います。以上です。

市長 はい、結論的に申し上げれば、しっかり受け止めてしっかり検討していきます。

私もですね、この病院の存続について、儲かってるか儲かってないかという視点だけでものを考えようと思っておりません。議会とのやり取りの中では、やり取りがそういう流れだったかもしれませんが、端的にはそういうやり取りだったかもしれませんが、いわゆる指摘あったようにですね、儲かってるか儲かってないかだけじゃなくて、住民の方々のもちろん、健康・生命を守る、安心感を保持する、そんなことももちろん大切だと思っていますので、もう現実的に、私もこの間

題を皆さんに提起させていただいてからはそういう視点も含めて、率直に言って、考えております。それはしっかり受け止めたいというふうに思っています。

それと病院の現在ですね、余剰金が約13億あります。この余剰金をもってすれば、今後の経営はしばらく安泰じゃないかと、こういうようなお話をいただくわけなんですけど、先ほど来申し上げているように、こちらのあの病院はですね、一般のこれから実際に具体的には専門的に調査をしていくわけなんですけど、一般的には大体45年ぐらいには建て替えるというようなことが見えてくるわけですね。この場合は、いわゆる災害が発生したときの指摘の中では、平久里川が氾濫したら、あそこはその氾濫区域になってしまうというようなゾーンとなっていて、そう言ったことも含めてですね、建物の老朽化やその氾濫区域に入っているということを考え合わせると、オーソドックスに考えるならば大体令和15年とか20年の間には、場所を変えて建て替えようと、こういうふうになるのが、オーソドックスな考えが出てくると思います。

建て替えるとなってくると、やはり通年の費用もかかってくるわけで、この基金が今14億あってもですね、これを持って将来にわたって安泰だとは、これはちょっと言い切れないところがございます。ですから、そういったことを冷静に考えていかなきゃいけないというふうに思っています。繰り返しになりますけど、儲かってるか儲かってないかだけで私は物事を考えようとは思っていませんので、今の区長さんのお話はしっかりと受け止めて、引き続き検討して参ります。

参加者4 ○○の○○です。よろしくお願ひします。まず基本的に市はですね、市民の生命、財産、生活の保証をすると基本的な任務がございますよね。てことで、市長さんは、この前も確認させていただいたのが3月の時点ですか、職員の皆様に先立てて、2年半、3年ほどは先にして全員解雇しますよっていう明言されて、議会の方にも、今年の春ですかね、議会の全体協議会か何かでこのようにするよと明言されたということだったんですね。

ただ、今の説明を聞きますと、ちょっと違うかと、僕はその説明に対して質問しようとちょっと準備していたんですけども、その辺どうなのでしょう。今日、要は市長の考えが基本的な所からやり直そうというふうになったのか、そこのところを確認したいと思うんですが、

市長 私は一番最初にこれを申し上げたときに、これは最終手段ではないですよこれは決定事項じゃないんですよ。ということで申し上げています。かつ、だから一番最初申し上げたことが、さっき申し上げましたけど、スケジュール感としては、今年度1年しっかり検討をし、ということで申し上げているわけです。ですから、もちろん真剣にこれまでの検討を続けている中で、今、今日私が説明させていただ

たことを、引き続きこれからも検討を積み上げていきたいということです。ですから初めからこれが最終案で決定事項ですと、いうことで申し上げているということは私はないと自分で思っています。

参加者4 そうしますと平成26年度末（令和4年度末（後日、本人に確認））にですね、強制解雇をしますよということを宣言されてますよね。さっき言ったように、公に職員の説明と、議会議員の皆さんに対して説明されたということとを、それに基づいての判断が始まったわけなんですね。そういう説明とちよっと整合性がずれてるような感じがする。

それで先ほど検討期間を1年延ばしますということをご説明ありましたけれども、それは平成にやっても26年度が27年度の末（令和8年度が令和9年度の末（後日、本人に確認））に変わるってことですか。そこが一番大事だと思うんですね。

市長 繰り返しになりますけれども、繰り返しになりますが、最終結論として、初めからこの提案をしているわけではありません。

議会においても、私はそういうふうに申し上げます。最終結論として、執行部として考えがまとまったんですよということで申し上げておりません。

それと先ほど申しましたけど、少なくともこの1年は検討期間を延ばさなければ、先ほど言ったような検討課題をクリアすることはできませんから、少なくとも1年と申し上げ、そしてさっきも申し上げたように、少なくとも1年、検討課題の整理が済まなければ2年でも3年でもしっかりと検討を積み上げていきますよと申し上げてるとおりです。

参加者4 はい、ではその件は終わります。これからが本番なんですけど、要は国は市町村自治体に対してですね、首都直下地震それから南海トラフの地震、これに対してしっかり準備しろと。いうご指示が出てるんですけど、要は津波対策をしっかりやれということですね。安房地域の病院に比べて一番津波に対して強くて安全なのは富山国保じゃないかなと思うんですよね。それを無くすというような発想はそもそもしてはいけないんじゃないかと私は思うんですね。

もう一つ付加させていただきます、富山国保を中心とする平群地区ですね、これは災害対象の大変重要な基地だと思うんです。津波のことはさっき言いましたから、4年前の台風の災害派遣のときは、館山の航空基地が使えたから自衛隊がそこで活動をしました。だけど津波のことを考えると、とてもじゃないけど、真っ先に館山もやられちゃうわけですね。そういうことで思いますと、この地域はですね、旧学校の跡地のグラウンドもあります、体育

館もある。飯炊きのための給食センターもある。一番大事な水もですね、ちょっと離れた山田に行けば、浄水施設もあると。ということで、災害対策の拠点としてですね、残すのは極めてこれからにとって重要じゃないかなと僕は考えますがその点についてはいかがですか。

市長 津波対策上どうかという視点はありませんでしたけども、今、要するに災害、安房地域全体を考えて、平群というところは優位性があるんじゃないかとそういった考えも検討すべきだと、こういうご指摘だと思いますんで、受け止めさせていただいて、検討してまいります。

参加者4 もう一つ追加させてください。要は、最終的に要は強制解雇という話になりますと、要は法的な問題とか、労働環境の問題とかいろいろございまして、これから検討される場合ですね、要はその専門家というか、そういう方を入れて検討してぜひしてほしいなというふうに思います。よろしくお願ひします。

市長 いろいろこれから今申し上げているような検討するにあたっては、我々だけではなく、専門的な人の意見も必要があるということで考えています。

参加者4 ありがとうございます。

参加者5 ○○の○○です。

いろいろ機能面とか経営面、それと施設の検討、この中で施設面は改修、建て替え、移転こういう中で一番ベストな方法がいいとは思いますが。

それと、経営面ですけど、もちろん合理的な検討方法が必要とされますが、これが民間とかがですね、移譲等をしますと人事等において、人の命よりお金の方が大切なんだという医療機関がありますので、そうしますと、今までずっと同じ先生が何年もいてくれることはなくて、事務員の人もずっといるんじゃないかと、年々交代させられると思うんですね。だから、やはりこういう人の命よりお金の方が大切な病院は絶対いけないと思いますんで、その点も考慮してもらえればいいと思います。以上です。

市長 経営形態についてもそれぞれにメリットデメリットがあろうかと思ひます。そんなこともしっかりと検討していきたいというふうに思ひます。

参加者6 ○○から来ました○○と申します。よろしくお願ひします。

私もですね今の話を聞いてですね、思ひしたのは、2月の職員への説明、議会への説明と今の話が違っていると。そこはですね、今ご質問された方から聞かれましたけどもなぜ違ひたのかということですね、きちっと説明していただかないといけないと思ひます。

要するに整理解雇するってことまで言ってらっしゃったわけですよ、そのことをね、やっぱり深く考えてほしいです。あなたはもう首ですよっていうことを直接言われたわけですから、それがそうじゃないんだ、最終決定じゃないんだというふうに今なってるわけですね。このことはですね、言ったことに対する責任をきちっと取ってもらいたいですよね。

皆生活が不安になっています。そういうことも考えてですね、きちっとそういうことは定義していただけないと本当に困るなと思います。

本題ですけれども、先ほどですね1年間延ばして、その中でいろんな検討を進めるんだということをおっしゃいました。

先ほどご説明いただいたですね、この中でびっくりしたんですけども、富山国保病院の主な課題っていうのを四つ挙げてます。これと課題への対応策についての検討という項目がありますけども、全然リンクしてないですよ。課題は患者数の減少だ、医師を初めとして医療従事者の確保だと、病院の老朽化だということをは言ってるわけですけども、この課題への対策についての検討の中身については、何も書いてないですよ。病院の建て替えだけですよ。だから、何をどうやって検討するのかっていうことがずれているんじゃないかな。それも含めてですね。1年間、何をどこでどういうふうに検討するのかっていうのを明らかにしていただかないと、僕らはですね、やりようがないですよ。

何か決まったら説明しますよってことじゃなくてですね、もう少し丁寧にですね、住民に沿ってこういうことしたいんだけどどうなんだろうと、もっときちっと説明していただきたいというふうに思います。

市長 いずれにしてもですね、職員の皆様方に、病院の職員の皆さん方に医療センターとの統合になったときには、整理解雇というような、そういう形になりますと、一つの形としてなりますという説明をさせていただきました。

いずれにしても、繰り返しになりますけれども、最終案として、申し上げていたわけではありませぬので、私もだから、もう1年かけてしっかりと考えて結論を出しますというふうに申し上げ、先ほど申し上げたように、今日までもいろんなことを考え、そしてどうしようか悩み、そういう中で、今日を迎えています。ですから、繰り返しなりますけども、これからも継続して検討していきたいということです。

それと、主な課題というふうに確かにここに書いたことと、課題への対策ということがリンクしてない、確かに言われればそうかもしれないですけど、患者数の減少ということ、どうしたらいいのかっていうようなこと、そうしたこともこれから

課題としてももちろん考えなきゃいけないと思いますが、かなり難しい問題かなという気はします。医師を初めとした医療従事者の確保、この点についても、ずっとある課題です。これについても対策について、すぐにその対策案が見つかるようであれば簡単に言えばそんなに苦労しないわけなんですけど、これも大変難しいです。医療従事者特に医師の先生の確保というのは難しい。言葉で言えば、市長が頑張れば何とかなるなんてそういう問題じゃないんですね。本当に。ですから、ご指摘のようにですね、こういう課題を含めてどう考えていくかということです。

参加者6 そうすると何が課題なのかっていうふうに捉えたんですか？ 今これが課題ではないとおっしゃったわけですよ。だからそうなると、何が課題だというふうに考えてるかということです。それとですね、その課題を解決するため1年延ばしたわけですね、スケジュールを1年先延ばしするんだとおっしゃったんですが、そのスケジュールを先延ばした中で、何をどうやってやっていくのかということをお明らかにしてください。

市長 ちょっと水掛け論のようになりますけども、これは課題です、明らかに。これを簡単にこうしよう、ああしよう、例えば半年のうちにこう考えてこういう結論を出そうと言っても、それは簡単には示せません。はっきり申し上げますけれども、それが半年や1年の中で、簡単に示せるようであったらどこの病院も苦労しないですよ。これはですね、ずっとこれはですね、これからも引き続きの課題であるんです。病院経営をしている以上は。だから、このことに関しては課題であることは間違いなくて、我々はこういう問題に引き続き取り組んでいかなきゃいけないということをお意識として持っているということです。しっかりと。

それ以外には具体的に申し上げますと、医療施設の老朽化や、そしてこの病院を継続して経営していくための手法や考え方としては、経営手法としてはこういったことも考えられますね、というようなことをここに挙げさせていただいて、それを一つ一つ考えていきますよと申し上げてるわけです。

参加者6 それのスケジュールですよ、どういうふうに検討していくか。

市長 これは先ほども申しましたけども、我々だけで足りないときには専門的な方の知恵も仰ぎます、ということになります。

それをいつまでに、私は少なくとも1年間は検討期間を延ばしますと申しました。3箇月後までにはこうします、半年後までにはこうしますというのはちょっと今申し上げられません。ちょっと今はっきりしません。少なくとも鋭意努力してまいります。

参加者6 でも1年ですよ。1年の中でどういうスケジュールでやるかぐらいは示してもらわなかったら対応できないじゃないですか。

市長 先ほども申しあげましたけれども、1年で検討課題の整理がつかなければ2年でも3年でも検討しますよと申しあげたとおりで、それも先ほど申しあげたけれども、検討状況によっては、適宜また皆さんに説明をさせていただき、できる限り皆さんに納得していただける結論を導きたいと、こう申しあげてるわけです。それが3箇月後はこうなります、半年後はこうなりますということは、現時点では申しあげられないということです。

参加者6 わかりました。要するスケジュールは今のところ、あんまり具体的になっていないということですよね。ぜひそういうのは、はっきりと早めに明らかにしていただきたいというのが要望です。

参加者7 ○○の○○といいます。

資料と市長の説明によると、富山地区の人口がどんどん減少しているから、高齢化が進んでね、人口が少なくなっていく、それを考えると、富山国保病院の赤字がどんどん増えていくっていうふうにおっしゃってたんですけど、本当にこれでね、もっと富山地区を活性化させる方法っていうのがあるんじゃないんですか？

あの、民宿組合の方たちがね、富山に夏になると子供たちが来る、学校の子供たちがいっぱい来る、それからスポーツセンターを利用するね子供たちが来るっていう、そういう人たちにとって富山国保病院が本当によりどころで、何かあったときは富山国保病院があるから富山の民宿を選ぶとかっていうようなことまである、そういうような形で街全体を活性化することとかね考えられると思うんですよね。富山には伊予ヶ岳もあるし、富山もある、そういう形で地域をもっと活性化したね、人口増やす方法、未来の子供たちにこの自然の中で育てて欲しいっていうそういう方向を持ったならもうね、もう赤字になるからもう病院はいらないんだっていうことにはならないと思うんですよね。

で、本当富山国保病院を利用した人たちが本当にいい病院だって言ったことを受け、なんか涙が出るほどだ、命を助けられたっていう、それは民間のためでなくて、公立病院だから本当、先生たちや働いてる人たちがね、市民のために困ってる人たちのために一生懸命やってくれる熱意が伝わってるから、国保病院を守ってっていうことになるんだって思うんですよね。その病院を地域から無くしていいのかって、年寄りがどんどん年取って人口が少なくなっているから、ちょっと走ればね、大きな病院あるじゃないかって、でもそうじゃないと言ってますよね、市民の方たちはね。

大きな病院のときは亀田（病院）もあるし、館山病院もある。だけど、なんかちょっと調子悪いなってときに見てくれるのが富山国保病院だっていうふうにおっしゃってる。もう本当、そういう意味では地域の中に安心できるね病院があるということが本当に生きていく、なんだろう、力になると思うんですよね。だから本当に無くさないで、無くす方向じゃないって残す方法で、ぜひ市長さん、力を発揮して欲しいと思うんです。富山や富浦地区の民宿組合とかね、医療なんだ、子供たちのスポーツセンターとかってことで大いに利用できて、それを機会に若い人たちが移住してくるような施策をいっぱい作っていただきたいと思います。

市長　引き続き地域活性化というような視点でのお話もございましたので、地域活性化については、引き続き一生懸命考え、取り組んでいきたいというふうに思います。今の意見も受け止めながら検討を進めてまいります。

参加者 8　〇〇の〇〇と言います。台風15号のときには、富山国保病院の方には本当にお世話になりました。私は移住して5年経つんですが、南房総に来て本当に良かった。市長さんって素敵な人だなと思いました。こんな素敵な病院があって、なんて良いんだらうって思っていました。ところが、ここに来て、何かちょっと違うなっていうふうに感じてます。

先ほどの話に戻りますが、1年間猶予って言ってましたが、その間に何か下心があるようなことを感じていませんか。いや、市民は忘れるんだとか、忘れるから1年でも2年でも3年でも先延ばした方とか、あと、裏工作をしようじゃないか、何かそのようなことのないようにくれぐれもよろしくお願いいたします。以上です。ごめんなさい。失礼だったら。

市長　あの、今の御指摘については全くありませんので。

参加者 9　〇〇の〇〇と申します。

最近ですね、世の中見てますと、何かその効率化とかね、採算が合うとか合わないとかって話が先に出てきちゃってね、それが先にいつもなっているような気がしてしょうがないんですよ。例えば国鉄の前はちゃんと走っていた内房線が今は2両編成で走っているでしょう。それから何だっけ、みどりの窓口がみんな廃止されちゃったんですよ。高齢者本当に困ってるんですね。買えないんだもん切符が。そうするとどうなるかっていうと、高齢の人たちは移住しなくなってくる。せっかく市長さんが、魅力ある南房総市を掲げてね、たくさんの人たちを呼び込もうとしても駄目なんですよ。私はね、実は10年以上前に病気があってね、それで内視鏡検査がうまいっていう鈴木先生のところに来たんですよ。そして非常にうまくやってくれた。それで

感動してね、こっちで気候もいいし、ってことで移住した者の1人です。ですからそれ以来、国保病院にはお世話になっておりますけれども、その病院がなくなるって聞いて私びっくりしてね、先生に本当なのって聞いたら、そしたらなんか市長さんもそんなふうを考えてらっしゃるようだっていうのを聞いてね、これは何かしなきゃいけないなというふうにしたわけなんです。

だから医は仁術言うじゃないですか。ですから、医療はね金儲けのためにやっているんじゃないでしょう。まず、住民の意見を聞いて、住民の医療健康を考えて、そのために病院があるわけで、行政はそれをどういうふうに活用するかという立場をね、ぜひ取っていただきたいと思うんです。市長さん大変でしょうけどね、そういう考えをぜひ持っていただきたい。

この富山国保病院の問題をずっと見ると、長いこと昔は寄付から始まるようだった。いろんな苦難を乗り越えてやってきたでしょう。でもそうして70年間やってきた中で、今回のような問題は起こってないわけですね。なんでこんなことが急に起こったのか、ちょっといろんな人の話を聞くとね、なんか2019年に国が儲からないのはやめるっていうことを言ってきた厚生省が。これは全国でいくらですか、424の公立病院をやめろっていうんですね、なんでかっていうと、採算が合わないから。それはね、おかしいってことをやっぱり地方の市長さんたちが言ってるわけですよ。そういう人に市長さんになっていただきたいと思うんですよ。

この話が出てきたのは2019年の台風の年ですよ。それで、千葉県内ではどこか、(千葉)市立青葉病院、それから国保で言うと、今度鴨川国保はそうでしょう。こういう病院が次々に名前を挙げて削減対象となっているわけです。それから遅れて市長さんの提案かどうかはわかりませんが、今度(富山)国保病院が出てきて、住民が決してね、統合しようとかさ、無くそうとか言ってるわけじゃない。だから、高齢者が次々に増えてくる、採算が合わない。高齢者が次々に現れ、増えてきたらね、ますますこの病院が大切なんじゃないですか。そういう高齢者のために、高齢者はあちこち歩けませんよ。ね、車もなかなかないわけで、交通の便だってないし、今だってさ国保に行けない人がどうやって行くかっていうとね、トミーのバスを使って、岩井の駅まで行って、館山で乗り換えて、そして鴨川まで行って、さらにバスに乗って、そして亀田(病院)に行くって言ってるんですよ。一日がかりですよ。だからなかなか(病院に)かかれないんですよ。そんなことまでして病院に行くなら、家で寝てようって、その結果どうなるかって言ったら、もういろんな病院に行かれなくてね、手遅れになっちゃう人

がたくさんいるわけでしょ。だから、この地域に一番近いような病院をね、ぜひ無くさない、持続させていく、そして南房総市には国保病院というのがあり、私みたいな人がたくさん増えてね、そして活性化していくっていうことをやっぱり考えていただきたい。

参加者 10 こんばんは〇〇の〇〇です。

私はそうですね20年ぐらい前になりますけれども、蜂窩織炎という病気になって、私はどういうあれかわからなかったんですけど、お医者さんに聞きましたが、もう命に関わるよと、腫れがどんどん体内に回って、毒素が体内に回って死ぬんだよと言われました。そうなのにあの用心はしてたんですけども、2回目になったときにやはり丸山に住んでたもんですから、丸山にそのとき行ってたもんですから、そこから富山国保に行きました。当直の先生がおられて、とにかく点滴をしようということで、点滴をしてもらって命拾いで、今72歳なんですけれども、こうやって生きてます。そういう怖い病気っていうのも、いつなるかもわからないんですよ、病気って。私は市長さんに二つお願いしたいことがあります。

それは、一つは今富山国保病院で働いている方々、お医者さん、看護師さん、それからもろもろの医療従事されてる方、そういう方たちが、あと1年を考える時間って言ったんですけど、あと1年もね、どうするんだどうするんだってね、働けるんだろうか、辞めざるをえないんだろうか、(職場を)替えなきゃいけないんだろうかとかね、そういうふうに思いながら、不安の中で勤めていたら、やはり患者だってね、どうなっちゃうのっていう感じになってしまいますよね。だからぜひ、ここを存続っていうことを私はお願いして、皆さんに言ってもらいたいと思います。

75年前に、そもそもなぜこの地域にね、病院を作ろうと思ったかって、そういう方々がいて、最初はその立派な病院ではなかったかもしれないけれども、とにかく医者が来て、見てもらいたい、命をね本当に大事に思って、みんな生活して長生きしたいということで、病院を作ったわけですよ。そういう病院を大事な病院をなくすっていうのは本当に考えられません。そうした後、先ほどの〇〇(参加者9)さんも、おっしゃられてましたけれども、お金がない、経済的なことを最初に考えて経営とではなくて、そもそも病院っていうのは、もしものときなんですよ。安全のための病院なんですよ。みんなが何人来るかでね病院が運営されるって、そういうことではないと思うんです。病院はあって、もしものときに私達が利用するわけですよ。そのもしものときの命の保障なんですよ。だからなくしてはいけないと

思うんです。ですから、医療従事者の方たちが、不安でなく働けるように、それとやはり、この病院はとにかく残してもらいたい。今、この南房総市の中だって、旧町で無医村のところありますよね。それなのに富山は国保病院があるっていうことでは、本当に素晴らしい場所だと思うんです。そして、本来ならば無くすんじゃなくて、南房総市にもっと病院を作るっていうぐらいの気構えでいた方がいいんじゃないかと思うんですね。とにかく、長くなりましたんでなんですが、とにかく病院はなくさないでください。私たちの命のもとです。保証です。よろしくお願いします。

参加者 1 1 ○○の○○と申します。

この資料にありますように病院の老朽化対策というのが大変だというお話をいただきましたが、ここは過疎地域指定がされて、過疎債があるというに聞いてます。かなりの持出しがなく国の方からの援助支援がいただけると、もう一つ合併特例債というのがこういう時に使えないんでしょうかね。他の忽戸小に使うように、忽戸小はもっともっと工夫すれば何とかかなると思うんですけど、こういうところに使っていただくのは本当に市民のためになるのではないかというふうに考えて、そういう資金の面で補助金制度の検討はしているのかどうか、その辺しているんであれば資料をぜひ出していただきたいというふうに思います。以上です。

市長 建て替え改修に係る財源になるかまでは資料をお出しするようなレベルの検討はしていませんが、一般的にですね、こうした病院を改修する場合、建替えの場合には、どのような国の制度を利用できるかっていうことは、なんていうんでしょうか担当と話をするとわかるんですけれども、では合併特例債に関して申し上げますと、合併特例債の利用期限というのは、令和7年度までに事業が終えるというものにしか使えませんので、簡単に言えばこの病院を改修するとか、まして建て替えるということは、とてもこの合併特例債が利用できるわけではありません。それと過疎債に関してもいろんな用途もありますので、ちょっと今私正確には申し上げられませんが、もちろんこの病院を改修なりですね、建て替えるときには、あらゆる事業そうなんですけども、その時々考えられる最も有利な国の補助制度を活用していきます。常にそういうことを考えていますから、そういったことは考えてまいります。

参加者 1 2 ○○の○○です。足が悪いので座ったままで失礼します。

あたたかいお話を聞いてちょっと言いにくいんですが、私も○○から平群に来て亀田病院がまだ小さな病院だった頃から知っています。これだけ亀田

(病院)が大きくなって、今地域医療センターっていう名前がついてますけれども、太陽会って亀田ですよ。

亀田(病院)もこんなに大きくなって、鴨川は亀田産業ですよ。富山は人が少なくて、過疎地でお金もない、赤字になる、なんでそんなところを欲しがりますか。私そこがおかしいと思いますよ。何年前から亀田病院が地域医療センターになって、協力し合っやってきたんでしょけども、ここにそんなに儲からないところに、欲しいって、じゃあもらってから、どういうふうに存続してくれるのか。先々何か診療所にするんだって、いつホカ(放下)されるかわかんないですよ。亀田産業はそんな甘くないですよ。亀田の中も大分もめていると聞いています。いい亀田と悪い亀田がいると、〇〇の方に弟たちがいるからそんな話を聞きました。あと、病院関係では君津中央、長狭国保、私の知る限りではそんなところですけども、鴨川のほうでは、長狭国保がなんとか免れた、君津中央もかわしたけど何とか免れたけど、まだ狙われているようです。亀田産業ですよ。市長さんが思うより怖いですよ。私怖い。怖いところだと思います。こんな温厚なところで育て暮らしてる人たちが立ち向かえませんよ。市長さんが守ってあげなければいけないと思います。

ここは生産性がなにも生まれなくて、投資したくないかもしれませんが、一応皆さんも何十年もここで生活して、安房で生活して、一生懸命ここを守ってきた人たちなんです。もうこれから年取って生産性がないかもしれないけど、守ってあげてもらいたいです。亀田産業から。よろしく願います。

参加者 13 三芳のかたが誰も言わないんで、三芳の人が大悪人なんでね病気になるんでないかって言われるとおいらないんで、私の親父の遺言でね、お医者さんと坊さんと喧嘩すんなって言われてるんですけど、今日はお医者さんと喧嘩するつもりは全くないです。

こんだけ皆さんに愛される病院ってすごいと思いますよ。本当に。

私の●もね平群病院にお世話になりました。最後まで看取ってもらいました。加えて母の時はね、親父についてはね肺がんで亡くなったんですよ。うちで家族にね、〇〇(参加者13)ちょっと病院に連れて行けっていうんですよ、死にそうだっていうんですよ、親父がね。84歳です。初めてお医者さんにかかったんですよ。軽くてびっくりした。それで平群病院に担ぎ込んで、そっから3ヶ月後ですか、亡くなりました。朝方呼ばれましてね、お父さんの容態が急変したから来てくださって行ったらね亡くなった、それ

までね、それはそれはね、本当に国保の皆さんには甲斐甲斐しく、本当にお世話になりました。頭が上がりました。お袋はまだすごかった。お袋のときはねもっと大変でした。認知症でねどうしようもなかった。足を骨折してね、平群病院から鴨川国保に移った。4日前に平群病院で胃がんの手術をした。多分先生じゃないかな。〇〇です。それでね、えらいお世話になったんですよ。いまだ忘れません。お袋もえらい感謝してました。それでね、退院してから自宅まで来てくれたんですよ。ちょっと言っていないかわかんないけど、綺麗な女医さんがね来てくれたんですよ本当助かりました。助かったんですよ。結局お袋さんは亡くなっちゃったんだけど、私もね病院で最後看取ってもらおうと思ってるんですよ。

したがってね、入院の病床の減、むしろ先ほどから言っていましたけど、高齢化でしょ。ますます入院の病床っていうのは必要だと思うんですよ。なぜ平群病院かっていうと、行きやすいんですよ。これ医療センターだとかね亀田病院で待合所とか受付でね、年寄連中がしゃべり回して、ぺちゃべちゃお話できませんよね。平群病院はできるんですよ。これっていうのは医療効果抜群ですから。みなさん笑っていますけど、本当ですよ。待合所でね、地域の年寄がね、向き合ってお一どうしたどうしたって話してるんですよ、医療効果抜群です。しかもね、看護師さんが知ってるんですよ、どこそこの訪問看護師とかね、どこどこのおばあちゃんって知ってるんですよ。だから、さっきねちょっとこれ言おうと思ったんだけど、医療従事者、看護師の方、医師の方、これはね平群病院の宝ですよ。宝物ですよ。これをね、首をカットしないと、絶対首切りませんと、なんと言えないのか市長さんとは思った。本当宝ですよ、医療の方々が。経験蓄積して、地域密着してこれだけ愛されてるんですよ。地域の自慢ですよ。宝ですよ。医療従事者の方々これはもう、絶対首切れないと明言してほしいということがあります。

もう一点は、市長さん迷ってると言いましたけど迷うことないですよ。なぜかという、任意ですから。もう一点はね、なぜかという、患者がいなっきゃ赤字になったっていいでしょう、いいことでしょう。消防署が営利団体だったら、火事が起こらなかつたら儲からないでしょ。じゃあ火事が起こればいいかっていうと、病院もそうですよ。前にね国保病院は患者をぜひ増やして欲しいっていうんですよ、医療従事者がですよ、おかしいでしょう、医療従事者がね。儲かんなくっていいですよ。だから、そんなこと言ったら市役所もそうですよ。市役所も大赤字でしょよ、比較すれば。だから市長さん迷うことはない、市長さん、悩むことはない。必要なんですよ。

必要なんだからってということで割り切ってしまうえば、あとは状況判断ですから。高齢化の状況を見たら、やっぱりね、入院の病床確保、介護ですね、介護予防ですか。この三つあたりがね、メインになってくるんじゃないかと思うんですよ。赤字云々ということもありますけど、そういったところにきちんと残すのは政治家の仕事でしょう。本当に儲かる、儲かかんないんじゃないかって話したんですけど、その論理だけやってたらね、政治家の仕事なんてのは楽ちんですよ。楽ですよ、大変だから政治家なんですよ。

従って、市長さん迷わずにね、民意ってことで腹を決めてもらって、病床確保に頑張ってもらいたいと激励です。よろしくお願いします。

参加者 1 4 すいません聞こえますか。

長時間お疲れ様でございました。

だいぶ質問のネタを用意しましたが、皆さんが質問しましたので、私心配してるものが二つあって、一つが今国の方で公立病院経営強化プランっていうのを出して下さいっていうんですけども、話の中で今回っていうのはもちろん、千葉県の医療従事者枠らしいですよ。となると、県もやっぱり黙って見ていないと思うんです。でも、観光のことを発言したほうが必要だと思うし、これ住民説明会の場なんですけども、もし万が一の災害が起きてチームになって、観光で来たお客さんがもし病院ありませんかっていうのはそれこそやっぱりイメージどうかなんで、なるべくその辺も考慮した上で議論を進めてほしいなと思います。ありがとうございます。〇〇の〇〇です。ごめんなさい。

参加者 1 すいません。2回目になります。〇〇の〇〇です。

日本は教育と医療は無料で受けられる国です。この国にそんなね、世界にありませんよね。それ職員の件がありましたけど、厚生労働省医政局長これは各都道府県知事あてに地域医療連携推進法人制度についてっていう通達があります。その中に職員のことを書かれている。厚生労働省の文書なので、えーと難しすぎて要約し、誰がどなたかに要約していただかないと多分わからないと思うんですけど、その中で医師・看護師等の人事交流、労働基準法上で実施する必要があるとその中でですね、労働者を辞職させるのではなく、関係会社において雇用機会を確保すると良い。一つは、関係者、医療連携推進法人制度について勉強されたんでしょうか？

市長 ちょっとご質問の趣旨とずれるかもしれませんが、医療センターとの経営統合という、この計画の中には、働いてる方々の雇用の確保という点では、希望されないという場合は別ですけども、希望される方は全て新たに整備される医療セン

ター側の病院のほうで働けると、こういう話を進めようとしていますので、今その連携法人云々、連携法人立で病院を持っているわけでは、ちょっとわかりづらいかもしれないんですけど、連携法人立の病院運営を我々はしてるわけではありませんので、個々の病院が連携推進法人という枠組みを使って協力できることを協力し合っているとというのが今の状態ですから、公立って、連携推進法人立の病院になっているわけではありませんので現状にね。ちょっとお話になってる趣旨と反れるかもしれないですけど、いずれにしろ働いてる方々の雇用については、進めようということで提案している医療センターの部署については、希望されなければ別ですけども希望される方はそちらの方で全て働くと、働いていただけるとこういうスキームになっている。

参加者1 房総メディカルアライアンスが設立されたら、医師又は人材の移動が相互に行われるはずですよ。それが目的で、法人設立をされたんですよ。

市長 その通りで、それは連携推進法人の一つのメリットですから、それは先生方の行き来ですとか、そんなことはこれまでも行なっています。

参加者1 市長は房総メディカルアライアンスの社員ですよ。社員というのは、民間企業で言えば重役たちで、安房医療センターと国保の病院の実情は把握されてると思うんですよ。でなければちゃんと喋ることはできませんので、医師とかそういう人材の交流はされてるんですか。

市長 細かい話は院長からもお話を聞いた方がわかりやすいと思うんですけど、医師の先生方の交流っていうようなことは既に行われています。

参加者1 待ってくださいよ。市長は社員なんですよ。議決権を持っている社員なんですよ。それがわからないからなんておかしいんじゃないですか。

市長 それはまあ、行き来が細かくどうなっているかということまでは分かりませんけれど。

参加者1 法人の社員じゃないですか。

市長 それをご指摘とすれば受けますけど。今、私はその点については問題はないと思っています。

参加者1 ちょっとわかんないですけどマイクを返します。

病院長 ではただいまの件につきまして、医師の交流がどうなっているかということについて、ご説明いたしますけれども、これ石井市長さんも大変よくご存知でいらっしゃると思いますが、詳しいことは私にということでお話をいただいたことと思います。それにつきましては、この設立当初から、医療センターから当院の外来に、医師が来てくださったり、当院が医療センターの救急の診療に赴いたりとかですね、そういうふうにお互いの交流をやってまいりました。また現在は医療センタ

一、当院に外来診療などで、月火水木金と5日間ですね、医師が派遣していただいて診療の応援をしていただいて、そういう交流をしていただいているところですよ。

参加者1 医師が交流した場合、報酬というのはどのように支払われているんでしょうか？

事務長 派遣していただいた医師の方の報酬については先生の来ていただいている時間等に応じまして、富山国保病院からお支払いを安房地域医療センターにしています。また、当院から協力した場合は当院にお支払いいただくような方法で行っています。

参加者15 ○○の○○といいます。守る会で○○をやっています。

19年の台風のときに、結構たくさん体調を崩した人たちが何人もいっぱいありまして、そのときに鋸南病院では発電機とかそういうものが不足してて、人員も不足してて、とても入院させられないっていうふうに言われて、ケアマネさん大変な思いをしながら、富山国保に連絡してみたら、連れてらっしゃって言うってもらって本当に助かったって話されてました。

私も実際鋸南国保もあるんですけど、なかなか自分にとって合わない病院なので、ちゃんと見すごいお世話になってとてもよく見てもらって、すごくありがたいなって。鋸南だからね、どっちも行けるんですけど、とても助かっています。

思うんですけども、富山国保の隣に介護老人ホームができたんですよ。介護の介護老人ホームの人たちも、いつでもね、夜でもね、休みでもいつでも何かあったら見てくれるっていう安心感を持っていらっしゃいます。鋸南町もすぐ隣で何かあったときにいつも助けてもらってる、そういう安心感があるとどなたかおっしゃってましたけど病院は何かあったときっていうね、思いがある。あるもので、それをきちっと受け入れてくれる公立の病院というのは決してなくしてはいけないって私も思います。

だから、どうか存続してもっと充実した医療関係を整えてもらえるよう、市長さんは頑張ってもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

参加者16 私は母の代から、富山国保病院にお世話になっております。それって、○○に姉夫婦がおりますが、近くてすぐ行けるのでまだ86歳の姉が、歩けなくなった兄を連れて病院に行っています。それがもし医療センターに行くとすると、交通の便がそこまで運転していったところで、診てもらうまでに、そうですね交通の車で行って姉も足が悪いので、駐車してから病院の中に入

るまでに、とてもじゃないけど痛くて歩けなくなる。そういうことで、今私 80歳ですが、80歳の私が車を運転して2人を連れて行きます。

普段は自分たちで行けるんですけど、そういうふうに市長は30分ならいいだろうっておっしゃいます。でも交通の便、そういう年寄りにとって、交通ってというのはとても大きな問題で、15分で行けるか30分で行けるかっていうのはとても大きい問題なんです。そののところが、今まで出てなかったの、言わせていただきたいと思います。

年寄りにとって、近くに病院があるっていうことは、とても大変なことだと思っています。〇〇の〇〇といいます。母は103歳まで病院でお世話になりました。

参加者1 すいません話ばかりなんですけど、富山病院の運営協議会規則ってのがあります。これ市長に質問します。

協議会は、病院事業の運営について重要事項を審議し、その結果を市長に報告するとなっています。この委員たちは市長が委嘱して命じています。それでなぜ市長がこの運営協議会で、発言されているのか。規則違反にあたりませんか。

市長 運営協議会という組織がございまして、この病院運営に関して、様々なご意見そしてまた私が、市が諮問することに関して、答申をしていただく、こういうような病院のことに関して重要なご意見をいただく機関として運営協議会というのがございます。

その運営協議会の機能としては、委員の皆さんから意見を聞くという機能もあるわけですから、それに対して意見を聞くにあたっては、私どもの考えを説明しなければ意見の聞きようもないわけで、私はそういう意味では意見として述べさせていただきます。そうした回答でよろしいでしょうか？

参加者1 すいません、それでは規則に当てはまらないんですよ。それですわね・・・
(会場内の声あり)ここは議会ではないよ。そうだよ議会ではないよ。

参加者1 ではやめさせていただきます。

参加者6 〇〇の〇〇です。

富山国保病院の病床に関した後にはっきりは言わなかったけど診療所を計画しているようなお話を聞いてるんですけども、もしそうだとするとその診療所っていうのはどういう運営形態になって、診療内容はどうなって、お医者さんはどういうスケジュールで、診療するのかということなのか。その診療所の運営経費についてはどういうふうに考えてるのかっていうことを、も

う一つは富山国保病院が、診療所になってしまうということに対して、医師会はどういう見解を持っているのか。ということですよ。

もう一つはですね、もし病院が診療所になってしまったあとにですね、今高齢者とか、独居の方が増えている富山地区だと思うんですけども、そこでの医療とか介護こういうものについて、南房総市としてはどういうふうな施策を考えてるのかっていう、その辺の検討内容がわかれば教えていただきたいんです。

市長　まずですね、医療センターとその統合という案の中ではですね、こちらの診療所になったときには、先ほど申し上げたように、そうなったときにこの診療所化された医療機関を誰が運営するかまでは決定はしてないわけです。

つまり医療センターさんにやっていただくということも決定してるわけじゃないし、南房総市が直接経営するってことも考えられるので決定ではないんですが、医療センターさんから提案いただいているのは、その診療所化されたときには、医療センターさんの先生が日々回ってこられて、例えばあるときは内科の先生がいらっしゃる、あるときはちゃんと整形の先生がいらっしゃるというような医療センターさんには様々な診療科がありますから、この地域のニーズに沿った先生方が曜日で割り当てて、体制が変わってきて、病院を運営する、とこういうような提案がなされています。

この地域の高齢化、高齢者の方が多い地域にとって、もちろん医療というものはもちろん大事なことはもう言うまでもないことなんですけども、あの医療があるタイプで、そうしたことがやはりもちろん重要で、これは一般的な話になるかもしれませんが、今でもそういったことはもう既に行われてるし重要性が言われてるんですけど、いわゆる高齢化の進行した地域にあっては、入院させる医療というよりは、生活支援型の医療が重要だと言われていています。つまり在宅系ですね。入院させる医療ではなくて、在宅においてずっとやっぱりケアさせていただくという医療が大事だということが、一般論的にも言われていますし、それは、私は指摘はそのとおりだと思います。

ですから、仮にその診療所化されたときには、医療機関としての機能としては診療所、それ以外には在宅を支援するような例えば提案はですね、医療センターからの提案としては、例えばデイケアサービスを充実するとか、またあるいは訪問看護といったものを充実するとか、そういうようなご提案はあります。

ただそれはですね、まず提案ということではあるんですけども、それ以上まだ中身を我々がそういうところまで検討して良しとしている。そうだねっていうところまで至っているわけじゃありませんけど、提案としてはそういうことですし、私も今

後とも、この地域ばかりじゃありませんけど、高齢者の住んでいる本市地域では、いわゆる生活支援型の在宅支援型の、そうした医療介護、そうしたものを充実していくことはとても大事だというふうに思っています。

参加者6 はい、ありがとうございます。その場合ですけども、そのお金は一体誰が負担するのかというのが一番問題なんです。今の話にはその点がすっぽり抜けているので、その辺のことをどう考えているのですか。

市長 具体的に言えばそこまで検討が至っていません。ですから、そういう運営を誰がするのか、そしてそれをやったときの収益の見込みがどうなるのかまでは、まだそこまで検討が至ってませんので、ただそういうことをやはり繰り返しですけども、高齢化の進む地域にあっては、充実していくことは大事だと考えております。

参加者6 今も病院が担ってる機能が本当に診療所で代替えできるかっていうことですけども、私はそれはなかなか難しいなと思ってるんです。それはなぜかというと診療所では入院機能がないわけですから、何かあったときの救命医療とかそういうことを担えないわけですよ。結局、亀田へ行くと、医療センターに行けという話になりますから。実はですねそれは診療所っていうのはちょっとどうなのかなというふうに私は思ってます。だから本当にどういうやり方でやるのかっていうのは、本当にやるんだったら診療所がやるのでちゃんと示してくれないと、それは判断できない内容だと思います。

それとですね安房地域医療センターも新病棟の建設っていうのが、50床の病床を移すときに向こうが新しい病棟を造るって言ってますよね、そのことについては、誰が作って、どういうお話をするのかっていうことなんですけども、それはもう具体的になっているのでしょうか？

市長 先ほど質問にちょっと回答が漏れてましたけど、ここを診療所化する、仮にですね診療所化することこれはですね、これから例えばこういったことを進めていくには様々なプロセスがありまして、最終的にはですね、この地域内の意思決定としては、最終的にももちろん議会があるのですが、地域内の医療関係者の決定としては、地域医療調整会議という医療関係者とか、地域の医療介護を司る我々が集まってですね、それを了とするか否とするかというような話の場合もあるわけなんですけど、その場で話し合われて、そしてそれが了とされれば、その計画を前に進めるということができるわけです。もちろん、だから、そういう地域医療調整会議にかけるといった内容にはまだいたっていませんので、ですからそこにもかけていませんし、そういった意味では、医師会の皆さんにジャッジしていただくような場面になっておりません。

参加者6 わかりました。それはいつ頃になるかもまだわからないということだと思うんですけど、議会答弁の中では、国保運営協議会にいろいろ検討をしてもらったという言い方もしてまして、今おっしゃってた地域医療調整会議そういう話は出てこなかったんだと思うんですよね。だから、議会答弁と違うんですよ、今の話を議会答弁の中ではね、国保運営協議会でいろいろ検討してもらって、それに基づいてやるんだとおっしゃってたわけです。その調整会議はどういうのいいかはよくわかりませんが、ぜひですね、どこでどういうスケジュールでやるのかっていうのをね、まだはっきりしないってことですから、ぜひそれを示していただいて、どこでどういう整理でやるのかっていうことをですね、皆さんの前に明らかにしていただきたいと思います。

市長 議会の中で答弁したものに全て満たされていないということが、調整会議のことは議会では説明してませんでしたから、これは質疑の流れ、やり取りがありますので、そこまでお答えしなかったと思いますけれども、今この場で申し上げられることは、いずれにしても市としての内部的な協議としては、病院の運営協議会、そういう病院の重要なことについてご判断いただく意見をいただく機関がありますから、そこに諮り意見をいただくということになるわけです。

また、そういうことを含めて最終的には議会で、採決をしていただく決めていただくという内部の話があり、外部という話になってくれば、さっき申し上げた医療調整会議というのがあります。これは、この安房地域内の医療介護を司る方々が構成しているこの地域内のそういう重要な問題に関して、どうしていくかということを考え、審議していく場ですので、先ほど申し上げたように、この場でやはり決定して、いいよと言っていたかなければ進めないわけです。

参加者6 それはどなたが招集するのですか。

市長 地域医療調整会議については、これは保健所の保健所長さんが大体呼びかけてその時々課題について話し合う、そういう議論になっています。

ただし、もちろん必要性があれば、やっぱり会員からですね、メンバーからこういう話し合いをテーマにしたいんだということは申し上げられるでしょうし、あの機能としては、保健所長が招集するというところでやっています。

参加者6 要請ですけれども、地域医療調整会議にかける前ですね、きちっと住民に説明してですね明らかにして、そういう手順を取っていただきたいと思います。

市長 先ほど来申し上げたように、地域医療調整会議とか議会に最終的にかけるとかは最終段階ですから、それにそうなる前には説明させていただきたいと思います。

参加者17 地元の〇〇の〇〇と申します。

院長先生に親の時代からお世話になっております者ですけども、市長さんに一つだけお願いがあるんですよ。

私はどっちかっていうと存続していただきたい。

それは人の尊厳を最後に尊厳を守ってたら、あるいはステージだったホスピタリティをきちっと守っていただくためには、このエリアでは国保病院が絶対的に必要なんです。

それとちょっと話はそれるかもしれませんが、たまたまアメリカへ隔年3回セミナーあって行ったときに、そのセミナーに来た女性が日本人なんですよ。その日本人どうもあの方が3回とも参加して、お子さんを連れてきたその都度大きくなって、当然ですよ。日本には帰らないのって聞いたら、帰ります。それはこの子が日本へ来て小学校一年生に上がる時には帰ります。その理由はなんですかって聞いたら、そこまで子育てするには最高の国ですって言ったんですよ。それはどういうことって聞いたら、州内でどこに行っても怪我しようが病院にかかろうが、この子のデータの全て整っている。だからどこの病院にかかってもすぐに治療ができる。これ素晴らしいことだなと思ったんですよ。それを考えたときに、今のこの国保病院がなくなったら、少なくともそれは無くなってしまふんじゃないかな。すごく心配ですね。

国保病院がここまで良くなってきてるっていうのは、鈴木院長の人柄ですよ。この人柄はものすごい財産ですね。ここの町民にとっては、そういうものを無くして簡単に、簡単にではないと思いますが、トップとしていろいろ考えたらよくそういう結論の方向に進まざるを得ないんだっていうのはわからないことではないんですが、どうか、人間の尊厳ということを、どうか考えていただいて、私は市長さんのそう人間性を信じてます。素晴らしい市長さんが誕生されたなど期待をしてました。そういう思いからしたらここでもう一度、存続させていかなきゃならないんだっていうことを、市民の多くの方がそう考えておりますので、どうかお考えを直していただければ、ありがたいと思います。

参加者 18 ○○の○○と申します。

この地域に病院があるっていうことは、これから先ほど示され、高齢者の人口予測の推移がまだまだ高齢者がたくさんおられるという形だと思うんですね。富山国保に入院している方たちは、まさにその高齢者の時代で、まだまだそこが減るわけではないので、今の時点でやはり病院をなくしていくところを考えていくのは、ちょっともっとよくこれから高齢者の方たちが住みやすい地域をつくる、地域医療をどうしていったらいいのか、どういうふうな形だったら、どう医療不足なく住民が安心して生活できるのか。

デイサービスがあればいいとか、ショートステイがあればいい、施設が充実すればいいわけじゃないんですね。施設は具合が悪くなればお家に帰ってください、病院に行って下さいって言うんですね。

大きな病院だとちょっと具合が悪いぐらいでは入院することはできないんです。小さな病院だからこそっていうことかな、公立病院だからというか、そこに寄り添えるっていうそういう病院だと思うんです。

何かのときにすぐ対応してもらえる、そういう医療がこれからも引き続きやっていけないと地域の方がとても困ると思うんです。老老介護だったり、独居の方たち、ますますこれから増えていくんじゃないかと思います。お子様たちは多分、一緒に住むとかしないと思いますし、本当にどうやって病院に行こうかなということが本当に課題だと思います。

そうですね、収益がないからっていうよりも、これからどういうふうな形で残していくか、先ほども市長さんはこれから考えていきます。ということでしたが、1年かけて2年かけて3年かけてと言っている間に、そんな不安定なところにやっぱり職員が集まらないし、だからやっぱりよく考えていただかないと、本当にこの地域の医療をどうしていくかが大切な問題ですので、住民の方たちの声を聞いて、住みやすい南房総市の医療を整えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

参加者 19 ○○の○○です。

ちょっと自分の質問の前に一つさせていただきたいんですけど、さっきの前の方が質問してて、病院は病床を委譲して診療所だけ残る。そういう計画も有るような、無いような、そのまま建物はまだ使えるのではないのでしょうか。先ほど老朽化云々で検討をするって言ってて、後にここは診療所になる介護施設になるならば、使えるじゃんと思ったのが一つです。

これから本題に入りますけれども、市長さんが考える公立病院っていうものなのか、お考えなのかというところをちょっと聞かせていただいていいですか。

市長 まず初めにあった、この国保病院の施設を今後とも有効活用していくということについては、これはその老朽化という視点で考えれば、果たしてそのようにできるかどうかということもちょっとわからないのが正直なところです。

ただ、提案や考え方としてはそういうたまたま今ちょっと申し上げたんですけれども、施設の老朽化を考えると現実的に、施設を使いながらずっとそれこそ診療所にしても他の機能にしてもやり続けることが15年後、20年後できるかということそれは疑問だということです。

公立病院の役割はもちろん、まずこの地域の公立病院の生き立ちを考えてもですね、不採算地域の医療を守っていく、住民の方々の健康、命を守っていく、そうしたことでこの病院は設立され、これまで、今日まできてるといふふうに思っていますので、やはりそうした機能をこれからも病院と公立病院の役割としては、これまでもあったんだろうと思っています。

参加者 19　　今回ですね富山国保病院はコロナで2年3年間ずっと耐えてきたんです。これは公立病院だからできたんです。民間の病院だったら、多分患者を全部出して、それでコロナ。安房地域だけじゃなくて、千葉県北の方からも来てるんです。いろんなところから患者さんが来て、それで元気になってもらうというか、隔離期間が過ぎて帰ってもらうそういう役割を公立病院でやってきたんですよ。

その公立病院がなくなる。そこに診療所はどういう形かわからないけれども、またそういうことが起こる可能性がある。そのときに医療センターはやってくれるんですかね。

ここにあるから普段は一般の患者様、有事のときはそういった体制を取れる。これは民間病院では多分できない。公立であるからこそできて、それで変な話、お金も考えに無くできるんですよ、それは多分、一般の住民もそれで了解してくれるはずです。

そういったところを、今まで実際に富山国保病院はやってきました。そういう機能を捨てるという状況に陥る、それは非常にもったいないと思うんです。変な話、国からお金が入る。最初の説明があったとおり、市長さんおっしゃってましたけど、職員さん頑張って少し黒字に転じてきてると思います。今まで赤字赤字と言っていましたけど、ちょっと黒字が出そうだ。だったら市の方に全額交付金を入れてください。そうすればもっと何でもやれますよ。職員だってその気になればしっかりやってくれるはずですよ。というのが言いたかった。以上です。

市長　　今の話の中で重要なのは、今回コロナという感染症の蔓延に対して、実は大変な役割を果たしてくれていたわけですがけれども、こうした感染症等に対する対応については、今回の事態を受けてく、国も今回のプランの中ではですね、いわゆる病床をどう確保するのかということが、全国各地で問題だったわけですね。

どこが、こういう患者さんも含めてこういう対応していくのかと問題になりました。そういうことがあったので国は今後ともありうる、こういう新興感染症についての対応については、簡単に言えば、県が主体になって、現在千葉県の中でも新興

感染症の予防計画というものを作っています、その中でどのようにこういう事態になったときの病床を確保していくかということは今検討している最中です。

今年度いっぱいで一応計画ができるというふうに聞いていますけれども、公立病院は、今回もそうですけれども、本当に院長中心にスタッフ中心にですね、理解していただいて、これもこの感染症の対応に当たっていたことは、これは公立病院だからこそやはりできたと言われ、まさしくその通りで、私は以前から今回のことを受けて思うんですけれども、さっき言った県が作成中の新興感染症の予防計画というばかりではなくて、今後またこの安房地域でこういう事態が発生したときには、どの医療機関がどういう役割分担をしながら対応に当たるかというような話し合いを持つことがとても大事だと以前から思っています、まだ実はそういう話はされていません。

公立病院に今まさにまず、第一にそういう期待がなされるのであれば、しからば公立病院は率直に言って、うちの富山国保病院ばかりではなくて、安房地域に鴨川国保もあれば鋸南国保もあるわけで、それはそのときには、もしうちの病院が公立病院ではなくなったとしたら、まだこの鴨川国保病院あるいは鋸南病院は、そうしたことを受け入れる能力がまだあるわけですね。

うちの病院がそうじゃなくなることを望んでるわけじゃないんですけれども、公立病院がこの地域内でその新興感染症に当たる記載がされてるのであれば、それは鴨川国保でも十分にそういったことを担えることはありうるわけですし、かつこれは首長どうしても話し合いますが、今後またパンデミックのような規模で知らないような大きなそういう感染者数が入ったときにどうなるかといえばですね、普通に考えれば、これは民間医療機関だから受け入れられないとか何とかっていう状態じゃなくて、これ民間医療機関にもやっぱり受け入れてもらって、それはもうお金に変えられないわけですから、そのときには例えばその地域で言えば、医療センターさんであろうと館山病院さんであろうと、また亀田さんも含めてですね病院にやっぱり頑張っていていただいて、それをやっぱりお金の面では必要であれば、国もそうかもしれないけど、県もそうかもしれない、三市一町もちろんですけども、皆で支え合って乗り越えていくってというような、そういう体制を取らなきゃいけないし、そういう話し合いが間違いなくなされるはずですよ。

指をくわえて見てるっていうその時々々の為政者や医療関係者とかいないと思っています。ですから、この富山国保病院がそういう役割を担ってきたことが、とてもありがたかったし、これからもそういう機能が期待されることは十分理解してますけれども、そういうようなことに向けては、地域内できっちり話し合って方向性を決めていくってことが大事だと思っています。

参加者 20 ○○に住んでおります○○と申します。以前国の機関で看護師をやってきました。

私が一番言いたいのは、ここにいらっしゃる職員の方は何人ぐらいいらっしゃいます？市の職員の方、市長さんの最初に、その病院の人たちに話をした内容と、今日の内容はかなり違うんですよね。最初は職員の方たちに話した内容は、あなたたちはもうクビですよってこういうことだったんですよね。

私はそれを聞いてびっくりしたんですけど、でももし市の職員の皆さんがそういうことを言われたら、どう思われますか。私は心臓が張り裂けそうでした。なんていうことを言う市長さんだろう。だから本当に為政者を選ぶことは、どれだけ大事なことだと思いました。

何という事だろう、何回言っても言い足りないくらい感じましたこんなことを言わせる状況じゃ絶対無いと思います。

市民の方だけ多くの署名を集めているのに、「市以外の人たちが多いんだね」こういう態度は無いじゃありませんか。市内だろうと市外だろうと、国民の気持ちはみんな同じなんです。そう思いませんか？私はほんとに涙がでるくらい悔しかったです。こんなことやってる市長さんて本当に居るんだなあと思いました。本当に私達に寄り添ってこそ、本当に尊敬できる市長じゃないでしょう。

○○に住んでおりますけれども、岩井地域はねほとんどが民宿をやっていたんです。今高齢化で、本当に少なくなりましたけれども、それまではほぼ100%近い人たちが何らかの形で、民宿に携わってきたんです。

ところが、私も民宿の手伝いで移住して14年になりますが、人手が足りないから手伝ってくれと言われて、朝5時から働いたり手伝ったりしてきました。あまり役には立たなかったと思いますが。その中で本当に民宿の人たち、精一杯頑張ったんです。それでもコロナには負けて本当にお客さんが少ない。しかし、そういう中でも、南は和やかだ。子供たちが、海の無い県だから来たいと言って、本当に学習するんですよね、体験学習を、そういう中である女子生徒さんが熱を出したんです。そしたらその民宿のご主人が「○○さん国保に連れてってくれるか」というから、いいですよって言って、あの先生1人とその女子学生を連れて車で国保病院まで行きました。

そしたら、山を越え、家も一軒も無いようなところを通っていくわけです。岩井の方から行きますからね。そしたら後ろでこそこそ、「こんなとこ

ろに、病院があるのかしら」と言ったんです。私はそれを聞いたら、そうだろうな。初めて来る人はそう思うよね、こういうふうに思いましたね。

ところが、車で着いて、街中ちょっと見えてきて、信号機を過ぎて右に病院が見えてきたら、「ほう」とこういう声を出したんですよね。私、その気持ちが良いわかるだけに、「大丈夫だよ、よく見てくれるからねっ。」ということで私も待ってました。窓口に学生さんなのでちょっと早めにお願ひできます、私も医療現場にいたんですよね。それでお願いしました。

そしたら、窓口の人も「わかりました。では何番にお入りになってお待ちください」と言われたんですよね。本当に嬉しかったですね。それで帰ってくる時はもう熱が下がったような感じでした。少しはまだあるんでしょうけれども、そんなことを経験しました。だから本当に民宿人たちの苦勞、そしてそこにね、本当に体験学習のために来て、地引網をやったり、房州うちわをやったり、魚のさばき方をやったり、名古屋の子供たちがちゃんと最後はそれで体験学習を終わりました。こういうこともあったんです。

それから、同じ〇〇に住むご夫婦で、81歳と80歳なんです。旦那さんが20年前から頸椎がおかしくなって手術をしたんですが、ちょっと失敗したみたいで、精神が不自由になって、こちらに移住してきて、20年になるそうです。奥さんも、足の膝関節が悪くて手術をしたり、台風の時に体の不自由な旦那さんを置いて東京に1人で手術のために行ったそうです。私はそれを聞いてたもんですから心配で大丈夫ですかって見に行ったら、もう痩せこけてご飯もあんまり食べられなくて、近所に知り合いもいないってことで痩せこけたんです。私が肉を半分あげたいと思いました。どれだけ嫌な思いをしてるか、市長さんお願いします。大変な人たちの思いがね、一番大変な人たちの思いを汲み取って、そこから出発してくださいね。これこそ、為政者がやることではないでしょうか？私はそう思います。だから何としても弱い人たちの立場、姿勢に立って頑張れば多くの人たちが救われるんです。これが皆さん当たり前のことではないでしょうか？私はずっとそう思い続けて頑張ってきました。だからこそ、今この富山国保病院、絶対に無くしちゃいけないと思ってるんです。どうでしょうか、間違ってるでしょうか。間違ってますね。

皆さん応援して下さい。1万5千の署名を達成するまで私達頑張ります、副代表として頑張っている〇〇です、どうぞよろしく申し上げます。

進行 その他ございますでしょうか。

それでは無いようですので以上で質疑応答を終了いたします。
以上をもちまして本日の説明会を終了いたします。
本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(閉会)